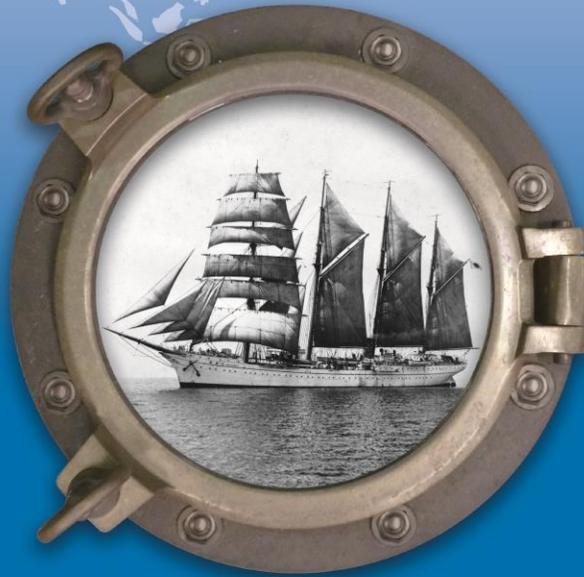


神戸から世界の海へ



企画展

神戸における海技者教育 100年の歩み (前編)

神戸大学大学院海事科学研究科・海事科学部100年の変遷

大正 6年 (1917) ▶ 私立川崎商船学校設立

大正 9年 (1920) ▶ 神戸高等商船学校創立

昭和 20年 (1945) ▶ 海技専門学院創設

昭和 27年 (1952) ▶ 神戸商船大学設置

平成 15年 (2003) ▶ 神戸大学と統合し海事科学部・海事科学研究科設置 (平成 19年)

2016

2017

11. 21 Mo. ~ 1. 25 We. 神戸大学百年記念館

サテライト巡回展・展示目録

はじめに

幕末から明治に入った日本では近代化が急速に進められ、造船や海運部門も大躍進しますが、急増する邦船船腹量に対応する海技者（商船士官）が不足してきます。神戸における海技者教育はこの時期に幕を開けました。

神戸大学の深江キャンパスは大正6（1917）年の私立川崎商船学校に端を發します。その後、国に移管されて神戸高等商船学校となり、爾来、資源に乏しい日本の生命線を維持するために数多くの商船士官を輩出し、国の発展に貢献してきました。

今回は平成29（2017）年に神戸の海技者教育が100年を迎えるのを記念した2期連続の企画展です。平成28年は前編として川崎商船学校から神戸高等商船学校まで、29年の後編では神戸商船大学から神戸大学大学院海事科学研究科・海事科学部にいたる海技者教育のあゆみを紹介いたします。

現在、国際貿易港として日本を代表する港町「神戸」は平成29（2017）年に開港150年を迎えます。近代から現代にかけての両者のあゆみもあわせてご覧ください。

神戸大学海事博物館 館長 矢野吉治

創立期

幕末のペリー来航をきっかけに、日本は海運の近代化へと転換していきます。神戸では兵庫津が古くから海運流通や国際交流拠点としてあり、そこに海軍操練所の開設、開港、居留地建設などが幕末から明治にかけて次々と重ねられていきました。

日清戦争、第一次世界大戦を経て日本の船腹量は急増しますが、逆に船員不足は深刻となります。川崎正藏は、四方を海に囲まれる日本は海運の発展によって台頭が期待されると述べ、海を舞台に活躍する海技者の養成を重視しました。川崎商船学校から神戸高等商船学校にいたる設立の経緯は、歴史的背景を念頭に、神戸での海技者教育が当初から広い視野で考えられていたことを窺わせます。

	資料名	年代	種別	寸法(cm)等	備考
1	摂州神戸西洋館大湊の賑い	明治7(1874)年頃	錦絵	長谷川小信画、本屋安兵衛発行、17×37	
2	神戸海軍操練所絵図写	不詳(文久3-元治2年頃を描く)	絵図	56×79	神戸市立博物館所蔵
3	海軍操練所跡記念碑	現代	写真		
4	兵庫市街之図(部分)	明治13(1880)年	地図		
5	川崎正藏氏(肖像)		写真	『神戸商船大学七十五周年記念誌』	
6	川崎芳太郎氏(肖像)		写真	『神戸商船大学七十五周年記念誌』	
7	川崎武之助氏(肖像)		写真	『神戸商船大学七十五周年記念誌』	
8	私立川崎商船学校の校章	大正7(1918)年	校章	『私立川崎商船学校一覽』所収	
9	神戸高等商船学校の校章	昭和初期	校章		注1)
10	神戸ハーバーランド煉瓦倉庫	現代	写真		
11	神戸港築港全景	大正8(1919)年	写真	『神戸実業要覽』神戸市役所、所収	

学舎

明治時代、海運保護政策をとる政府方針により、東京に商船学校が設立されます。のちの東京高等商船学校（現在は東京海洋大学）です。神戸では川崎家三代や関係者の尽力により、大正6（1917）年に私立川崎商船学校として設立認可されます。

3年後には文部省所管の神戸高等商船学校となり、修業年限5年6か月の高級船舶職員育成のための海技者教育が進められました。現在の神戸大学海事科学研究科・海事科学部はここに始まりません。神戸における海技者教育は、神戸港にほど近い深江の浜辺を選び、その歩みを進めてきました。商船士官教育の殿堂として戦前から現在にいたるまで、東の東京を「越中島」、西の神戸を「深江」（の商船学校・大学）と、親しみを込めて呼ばれています

	資料名	年代	種別	寸法(cm)等	備考
12	神戸高等商船学校校舎模型		模型		注 1)
13	川崎商船学校設立時の規約	大正 9(1920)年	文書	26×36	注 1)
14	川崎商船学校校舎の軒瓦	大正 8(1919)年	軒瓦	30×50×16 厚	注 1)
15	私立川崎商船学校(海側からの景色)	大正 8(1919)年	写真	27×96	注 1)

教育と日常

私立川崎商船学校に始まった海技者教育は、将来の商船士官を育てるために全員が寮で起居する“全寮制”が採用され、海技知識や技術、能力の向上のみならず、シーマンシップの涵養を大きな柱に徹底した教育が展開されました。座学教育以外に、厳しい実習訓練を通じて商船士官としての資質や心構え、強靱な精神力、連帯感などの育成とともに、近い将来、無冠の外交官としての役割を担うべく国際性の向上にも力が注がれました。

高度な専門知識や技術に裏付けされた考え方や行動、精神力や国際人としての感性など、船員に求められるあらゆる能力の総称を“シーマンシップ”といいます。

16	歴代校長(伊東治三郎氏、藤井治三郎氏、永田泰次郎氏、小関三平氏、吉利巖氏、篠崎認三氏)		写真	『神戸商船大学七十五周年記念誌』	
17	卒業証書	大正 11(1922)年	文書		注 1)

練習船 進徳丸

海技者教育で欠かせないのが船舶実習であり、その練習船の代表格が帆船「進徳丸」でした。進徳丸は大正 12 (1923) 年に進水し、翌年から遠洋への訓練航海を行います。昭和 16 (1941) 年までの 18 年間に計 34 次を数えました。縦・横両型のマストをもつ姿が印象的だった進徳丸は、戦後は汽船として復活し、長く練習船として活躍しました。

廃船後、昭和 42 (1967) 年から大学構内に据え置かれ、青少年教育の施設等として活用されますが、平成 7 (1995) 年の兵庫県南部地震で大被害を受け、やむなく解体されました。現在、神戸大学深江キャンパスの港に、船体の一部が進徳丸メモリアルとして設置され、往時を伝えています。

18	進徳丸の乗員たち	大正 13(1924)年	写真		進徳丸処女航海時
19	進徳丸メモリアル	現代	写真		
20	進徳丸第一次航海の航路(海洋表面塩分・水温分布図)	昭和 4(1929)年	図	須田皖次、関和男「進徳丸第一次北太平洋横断特別観測報告」『海洋時報』1-1 所収	
21	進徳丸(帆走)	昭和初期	写真		
22	進徳丸(機走)	昭和初期	写真		
23	神戸高等商船学校(パンフレット)	昭和初期	文書		学校案内の三つ折りパンフレット
24	昭和丸	昭和初期	写真		
25	神戸高等商船学校鋼製バーク型陸上帆船建造仕様書	昭和初期	文書		昭和 4 年竣工の昭和丸の建造仕様書
26	大正丸	大正・昭和初期	写真		
27	汽艇練習船深江丸	昭和初期	写真		昭和 2 年建造
28	カッターの練習風景	昭和初期	写真		
29	カッター巡航風景	昭和初期	写真		
30	遠泳風景	昭和初期	写真		

写真・絵葉書

神戸高等商船学校の学生生活、授業活動などがうかがえる写真や絵葉書を、あわせて展示しました。

大正・昭和期の学校の様子をご覧ください。

31	室戸台風による被害	昭和9(1934)年	写真	37×44	
32	進徳丸実習風景	昭和初期	写真	37×44	
33	軍事学実習	昭和初期	写真	37×44	
34	神戸高等商船学校絵葉書	昭和初期	絵葉書	37×44	4枚、外袋付き5点
35	カッター陸揚げ風景	昭和2(1927)年頃	写真	37×44	
36	食堂での食事	昭和初期	写真	37×44	
37	製図授業	昭和初期	写真	37×44	
38	入浴風景	昭和初期	写真	37×44	
39	校舎内教室風景	昭和初期	写真	37×44	
40	錬鉄工場	昭和初期	写真	37×44	
41	需品部	昭和初期	写真	37×44	
42	第22回短艇巡航	昭和18(1943)年	写真	44×37	
43	操船作業実習	昭和初期	写真	44×37	
44	進徳丸遠航記念絵葉書	昭和10年代	絵葉書	56×44	カッター巡航記念含む、10枚
45	カッター(端艇)	昭和初期	写真	37×44	

注1) 現物を神戸大学海事博物館にて展示中です。

主要参考資料

神戸商船大学五十周年記念誌編集・刊行委員会編(1971)『神戸商船大学五十周年記念誌』神戸商船大学五十周年記念会
神戸商船大学七十五周年記念誌編集刊行委員会編(1996)『神戸商船大学七十五周年記念誌』神戸商船大学七十五周年記念会
海技大学校五十年史編集委員会編(1995)『海技大学校五十年史』海技大学校奨学財団

夜久 正編著(2012)『高等商船学校神戸分校(専科)廃校史』高等商船学校神戸分校 校史語り部の会

海技専門学院編(1961)『創立16周年史』海技専門学院

本庄村史編纂委員会編(2004)『本庄村史：神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ/地理編・民俗編』本庄村史編纂委員会

本庄村史編纂委員会編(2004)『本庄村史：神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ/歴史編』本庄村史編纂委員会

神田文人、小林英夫編(2009)『昭和・平成現代史年表：大正12年-平成20年/増補版』小学館

神戸市文書館「神戸歴史年表」神戸市文書館

(最終閲覧2016年7月1日 <http://www.city.kobe.lg.jp/information/institution/institution/document/year/year.html>)

歴史学研究会編(1981)『日本史年表』岩波書店

全日本船舶職員協会五十年史編纂委員会編(1981)『五十年史：明治・大正・昭和 船舶職員と商船教育変遷の記録』全日本船舶職員協会

協力(順不同、敬称略)

一般社団法人海洋会、神戸大学附属図書館、大学文書史料室、山口誓子記念館、誓子・波津女俳句俳諧文庫、造船資料保存グループ、人文学研究科地理学教室、井東敏子、別所 修、野邑理栄子、米田恵子、船阪富美子、森本聡美、凸版印刷株式会社

補注

本企画展は、神戸大学海事博物館ボランティアである特別専門員が中心となって作製いたしました。巡回展は企画展の内容をコンパクトにパネルに集約し直したものです。巡回展準備にあたり、博物館学を学ぶ学生ボランティア他の協力を得ました(磯野 伶介、高井 佑人、川崎 有里紗)。古写真は2016年度前期に、文化財学(文学部開講科目)受講生の協力により目録化したものです。

本目録は、神戸大学海事博物館巡回展2016「神戸における海技者教育100年の歩み(前編)」(会期2016.11.21～2017.1.25 百年記念館、2017.3.6～4.6 社会科学系図書館)に関する出品資料等を記載した。

(編集: 専門員・菊地)

発行: 2016年11月21日 神戸大学海事博物館